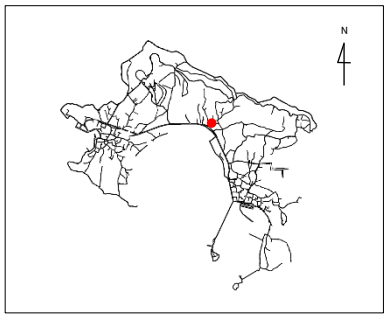
掛梨（かけなし）遺跡現地説明会資料

令和５年１１月２５日（土）
西尾市教育委員会文化財課



■所在地：西尾市一色町佐久島掛梨
■調査面積：約 21.4 ㎡
■調査目的：遺跡の範囲と内容の確認
■調査期間：令和 5 年 11 月 1 日～11 月 28 日

1　掛梨遺跡について

本遺跡は佐久島中央部南岸に位置する古墳時代～飛鳥時代の製塩遺跡です。

愛知県の沿岸部や島嶼部では古くから土器製塩（土器を利用した塩の生産）が行なわれており、市内の海岸部でも製塩遺跡が複数確認されています。掛梨遺跡はそのうちのひとつで、昭和 58 年 6 月に市指定史跡となりました。

遺跡遠景（南西上空から撮影）

古代の塩づくり

洲崎御堂前遺跡出土（東幡豆町）　巨海城跡出土（巨海町）

製塩土器（塩づくり専用土器）
脚部を砂浜に差し込み、お椀型の杯部で海水を煮詰めていました。

発掘調査では脚部のみ形を保ち、杯部は壊れて破片で見つかることがほとんどです。

本調査で発見された製塩土器脚部

安城市・西尾市共同開催
古代製塩実験体験講座「古代の土器で塩をつくろう！2023」での塩づくりの様子

火の周りに差し込んだ土器に、鹹水（かんすい）（濃縮した海水）を注ぎます。

塩の結晶が土器に付着し始めます。
鹹水が減ったら継ぎ足していきます。

鹹水を蒸発させると、器の下部に塩の塊ができました。

これまでの調査

昭和 42 年、個人住宅の基礎工事中に製塩土器が多く出土したことが遺跡発見の契機となりました。その後、同 43 年に当時の一色町教育委員会が試掘調査を行ったところ、製塩土器を含む土層が確認されたため、翌 44 年 8 月に日本考古学協会生産技術特別委員会製塩部会による発掘調査が行われました。計 15 ㎡が調査され、黒色土中から多量の製塩土器が出土しています。

昭和 44 年調査の様子（左）
昭和 44 年調査　遺物出土状況（右）

2　今回の調査について

西尾市では令和元年度から佐久島に存在する遺跡の継続的な確認調査を行っています。掛梨遺跡の範囲は昭和 40 年代に調査が行われた民家周辺とされていますが、調査図面などの当時の記録が残っておらず、調査位置や具体的な遺物の出土状況などが不明となっていました。今回の調査は、今後の保存と活用のため、遺跡範囲や内容を明らかにすることを目的として発掘調査を実施しました。

3　調査の成果

製塩土器を多量に含む
黒色土の分布範囲

調査区全景（右が北）

B 区（3.9 ㎡）

地表から約 50 ㎝～80 ㎝ほど下の黒い土の層から多量の土器片が出土しました。後世の掘削により土層が乱れている箇所もありますが、残存状況はおおむね良好で、南に向かって製塩土器を含む層が薄くなっていることが明らかになりました。

西壁　南側

西壁　北側

A 区（2.25 ㎡）

Ｂ区の調査成果から、遺物を多量に含む黒色土層の堆積状況を確認するために設定しました。堆積の状況がよく残っており、6 世紀代の製塩土器の脚部が 150 点以上、杯部の破片などが多量に出土しています。南側（海岸方向）に向かって地形が傾斜していることがわかりました。

堆積状況（南壁）

遺物包含層　上層の製塩土器出土状況

遺物包含層　下層の製塩土器出土状況

白色物質の検出状況

製塩の際に生じたカルシウム分と思われます。

土層堆積状況（西壁）

南側（写真左）に向かって地形が傾斜しています。

C 区（1.23 ㎡）

この地点でも製塩土器を多量に含む黒色土層が確認されました。

堆積状況はＡ区の北側と概ね一致します。

堆積状況（北壁）

遺物出土状況

D 区（10 ㎡）

堆積状況（東壁）

黒褐色～褐色の砂質土の堆積が確認されました。掘削中に製塩土器の脚部が少量発見つかりましたが、他の調査区のような黒色土は確認されませんでした。

E 区（4 ㎡）

堆積状況（北壁）

遺跡の広がりを確認するため設定しました。

後世の地形改変がみられ、かつての地形は失われていました。

4 まとめ

今回の調査では、発掘調査を実施した 5 か所の調査区のうち、民家の敷地内のＡ・Ｂ・Ｃ区で製塩土器を確認することができました。海岸に近いＥ区はかつて海であったため、昭和時代の埋め立ての痕跡が見られました。敷地内のＤ区では製塩土器を含む黒色土が確認されなかったため、Ａ・Ｂ・Ｃ区の辺りが遺跡の中心部分にあたると思われます。

また、土層の堆積状況や遺物から遺跡の内容が確認できました。古墳時代後期（約 1400～1500 年前）の製塩土器を大量に含む厚い層が見つかり、この遺跡で約 100 年にわたり土器製塩を行っていたことが再確認できました。製塩に関する遺構の発見には至りませんでしたが、Ａ区では製塩の際に生じたカルシウム分と思われる白色物質が見つかり、塩づくりの痕跡を確認することができました。

さらに、古墳時代の層の上に中世の遺物を含む層が堆積していることがわかりました。

今後、出土した製塩土器の分析を行い、古墳時代の製塩の実態を明らかにしていきます。